

愛知学長懇話会SDGsリレーシンポジウムにて学生が発表しました！

2026年1月10日（土）に藤田医科大学にて、愛知学長懇話会SDGsリレーシンポジウム「防災×SDGsワークデー～実践×対話で備える、私たちの未来～」が開催されました。本イベントでは、「防災×SDGs」をテーマに、災害に強く、誰もが安心して暮らし続けられるまちづくりについて、学生同士が学び、考え、体験するプログラムが実施されました。各団体の取り組み成果発表では、本学の

「medicalHUB」が学生自らが企画し深く体験的に学ぶPICo projectの概要や防災に関する取り組みを、そして、「名古屋市大学生消防団 名古屋市立大学分団」は防災啓発や地域での活動内容について、それぞれ発表を行いました。

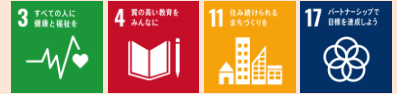
いずれも高い評価を受け、名古屋市大学生消防団 名古屋市立大学分団は「優秀賞」を受賞しました。



medicalHUB
発表タイトル：みんなの「やりたい」を形にする
PICo project～未来につなげる防災～



名古屋市大学生消防団名古屋市立大学分団
発表タイトル：大学生消防団がつなく防災
-地域との関わり合いの中で-



Human Feedbackプロジェクト2026 講演会を開催しました！

2026年2月22日（日）に東山動植物園にて、「Human Feedbackプロジェクト 2026 -動物とヒトとの共存 そのために私たちに何が出来るか？-」と題した講演会を開催しました。本プロジェクトは、1995年から始まり「人の医療を動物に還元する」をテーマに東山動物園をはじめ、全国各地の動物園、そして現在では海外の動物園とも連携して活動が続けられており、講演会は今回で3回目の開催となりました。

当日は、本プロジェクトを主宰している本学看護学研究科の尾崎康彦教授（現西部医療センター特任教授）が総合司会を務め、講演ではオランウータンなどの類人猿の子育てを自身の子育てに活かした体験談や、オランウータン飼育の人工哺育の歴史や福祉重視の飼育、今後の国内飼育の課題などをお話いただきました。

講演会は多くの参加者で大盛況となりました。



講演会の様子

名古屋市立高針台中学校の生徒が来訪しました！

2026年3月10日（火）に名古屋市立高針台中学校の1年生10名が本学に来訪しました。高針台中学校では1年生の「総合的な学習の時間」においてSDGsをテーマに掲げ、1年を通して生徒一人ひとりが主体的に学びを深めるカリキュラムに取り組んでいます。今回はその授業の一環として、実際にSDGs活動に取り組んでいる本センターを訪れました。

当日は、人間文化研究科の谷口由希子准教授やゼミ生に協力いただき、「ようこそ！大学へプロジェクト」などのSDG4「質の高い教育をみんなに」を中心とした本学のSDGs活動紹介や、6月に高針台中学校で出張授業を行ったSDGsアンバサダーの学生との座談会を行いました。

中学生たちは熱心に耳を傾け、座談会では大学生に対して積極的に質問を投げかける姿が印象的でした。



活動紹介の様子
(人間文化研究科谷口先生とゼミ生)



大学生と中学生の座談会の様子
(SDGsアンバサダーの学生)





本学の研究や取り組みとSDGsとのつながりを紹介するコラムです。
第6弾として人間文化研究科の宮下さおり先生の取り組みをご紹介します！

家族経営による小規模自営業の中で働く「女性」に注目！



宮下先生

もともと、ジェンダーや社会の階級構造に関心がありました。その中で初めは中小企業で雇われている人を対象に、男女双方の視点からジェンダーを捉える研究をしていました。研究をさらに発展させる方向を模索する中で、「事業を営む」という世界に興味を持ち、現在は小さな自営業（家族経営）の女性がどのように働いているかを調査し、そこから見えてくる特性や形成されてきた社会背景、法律的な課題（税や社会保障制度）、国際的な違いなどについて研究をしています。

＼ 宮下先生の研究について ＼

家族経営における女性の関わり方は家族関係や経営形態、制度など複数の条件が重なり合うことで多様なバリエーションが存在しています。聞き取り調査や資料調査を通じて多様な事例を収集し、そこに見られる共通のパターンが、どのような秩序や条件の重なりによって生み出されているかを分析し、体系化・言語化を行っています。



家族経営の中で働く女性の課題

家族経営では職場と家庭の境界があいまいであり、税制度の仕組みによって家族の労働が賃金として認められにくい。実際働いているのに、社会的に「働いていない」と見なされてしまうことがあります。また、社会保障においても自営業で働く人が対象外になっているものがあり、制度的な課題が存在しています。

社会保障制度の一例	自営業	被雇用者
所得補償	なし	傷病手当金等あり
保険料	全額自己負担	会社と折半
産休・育休中の給付金	なし	あり

小規模自営業（家族経営）の重要性

自営業という形態自体は、伝統産業や小規模農業などを支える存在であり、重要な役割を持っています。世界的にも、ILO（国際労働機関）は小規模企業の振興を重要課題としています。国連でも2019年から2028年を「家族農業の10年」として定めており、家族農業を守る動きなどがあります。

多様な働き方や小さな営みを尊重し、家族経営（小規模自営業）をサポートする体制づくりが重要な課題となっています。



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

宮下先生の研究は、これまで十分に可視化されず、正当に評価されてこなかった家族経営における女性の働き方に光を当て、制度との関係性を明らかにする重要な取り組みです。SDG5「ジェンダー平等を実現しよう」やSDG10「人の不平等をなくそう」といった課題にも密接に関わっており、社会的意義の高い研究でもあります。多様な働き方を尊重し、誰もが適切に評価される社会の実現に向けて、本研究が果たす役割は今後ますます重要になってくると確信しています。

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
(経営企画部企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

